

自由記述より

各項目後に設けた記述欄に記載されたご意見について、学校側の対応も含めてご報告いたします。

- かじかの里学園でお世話になっていることもあり、お忙しい合間を縫って書いてくださる学校のブログや学校、学級だよりが日々の学校生活の様子を知るうえで、とても楽しみであり情報源となっています。
学級だよりは紙面が限られているので難しいこともあるかと思いますが、出来事や状況報告以外に、その事を通して先生が感じられたことや思いなどをさらに書いて頂けると、子どもや先生が日々の学校生活から何を学んでいるのかが具体的にわかり、私たち保護者もさらに興味を持って読ませて頂けるとと思います。

学校では、Webページや学級だより、学校だよりで学校の様子をお知らせしています。ご意見にあるとおり、出来事や行事について、担任がどういう思いをもって取り組んでいるか、何をねらいとしてやっているのか、事後にどのような考えをもったのか等の担任の思いもお知らせできると、より学校の様子を詳しく知っていただけると感じます。出来事や状況報告に終わることなく、できる限り担任の思いや学校としてのねらい、目的、目標等の情報の発信に努めていきたいと思えます。

- 「決められたものをやる宿題」から、「自分で考えて行う自主的な家庭学習」に少しずつ移行していただき、ありがたく思っています。我が子がどれだけ取り組めるか未知数だったのですが、意外なことに決められた宿題の時より張り切ってやっています。自分で決めて行えるということ、また先生から信頼されているという感じもしてうれしいようです。温かな言葉がけをいつもありがとうございます。引き続き家庭でも支援していきたいと思えます。

今年度は、3年生の後半から自分で宿題の内容と量を決めて取り組んでいます。また、3・4年生で「宿題会議」を職員と児童で行い、宿題の意義や「自分から」の家庭学習の在り方などに一緒に考えました。自分がやりたいことややらなくてはならないことをしっかり決めて、家庭学習を行うようにしています。さらに、低学年においても複数の課題を提示し、そこから宿題を決めるようなやり方も行っています。

宿題は、廊下や教室の壁に掲示して、児童の宿題の選択肢が増えるようにしています。授業の予習・復習に限らず、自分の夢や希望の実現や興味・関心のある事柄について、追究する活動も立派な家庭学習であると考えます。

- 読書を進める機会は多くとってもらえていると思えますが、動画やゲームを覚えてしまうとうとうどうしてもそちらに行きがちです。読書をするようになるにはどのような声かけが必要か知りたいです。火曜日も、読書の日の方はもう読んだから!と言って家では本を読まずに動画を見ています。多分、読んでないんじゃないのかな?と親としては不安な気持ちになります。
読書の楽しさを感じられるように益々、推し進めていただけたらと思えます。

今年度は火曜日を読書の日として全校で取り組んでいます。また、国語の時間に図書館に行き、読みたい本の貸し出しを行っています。休み時間にも本を読んでいる児童もいます。図書・掲示委員会では、図書委員のおすすめ本や先生のおすすめ本の紹介ポスターを作成し、お知らせしています。また、図書委員が各教室に行き、読み聞かせを行ったりもしています。授業でも、司書さんをお願いして、単元に係わる本を用意してもらい、学習の参考できるようにしています。娯楽としての読書、調べ学習としての読書と、本は児童にとって身近なものです。本の中の世界を楽しむ、新たな発見の喜び等を児童に味わわせることができるように努めていきたいと思えます。

- ※ 運動量、感染症予防、給食着、通学路等の安全・安心に関わることなど、たくさんのご意見をいただきました。地域や教育委員会と連携し、全職員で諸問題の解決に努めていきますので、これからもご理解ご協力をよろしくお願いいたします。
ありがとうございました。